TOP MUSEUM

東京都写真美術館ニュース
eyes116

記憶：リメンブランス
— 現代写真・映像の表現から

時間旅行
— 千二百箇月の過去とかんずる方角から

eyes TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM
NEWS MAGAZINE / 2024 Vol.116

記憶：リメンブランス―現代写真・映像の表現から

INTERVIEW

Remembrance beyond images

日本、ベトナム、フィンランドの現代作家のアプローチから、写真・映像が、人々のどのような「記憶」を捉えようとしてきたのかについて考える「記憶：リメンブランス」展。出品作家の小田原のどかさんと村山悟郎さんをお迎えし、展覧会について担当学芸員の関昭郎がお話を聞きました。

関 今回の展覧会には、ペインターの村山悟郎さんと彫刻家の小田原のどかさんに入ってもらいました。写真と映像を専門とする当館の企画としては、意外に思われるかもしれません。実は長らく私のなかで、専門館だからこそ、既存の枠組みを見直すような先端的、あるいは領域横断的な試みを問いかけたいという問題意識は頭の片隅にあったんです。それで、まずは村山さんに話をもちかけたんですね。

村山 たしかに今の時代、「絵画」と「写真」を概念として明確に分けることは難しくなっています。昨今の生成系のAIの進化もあいまって、そもそも人間が手で描くとか写真家が撮影するといったメディウムの純粋性を強調するよりも、人間とAIとが関わり合いながら新しいイメージをつくりだす方向に向かっている感覚があります。

僕が写真という観点で興味を持ったのは、カメラとかスマホというデバイスを通して、人間のありかたとか現実が変容してきた点でした。絵画史でも、写真が登場したことで印象派の技法が発明された話は有名ですし、現実世界においても「インスタ映え」が空間とかその場でのふるまいを規定している側面は否定できないですよね。

そうした〈絵画―写真―AI〉の一体性が作り出すイメージという観点で、今回の新作《データのバロック―機械学習のための千のドローイング》を構想しました。身体行為にまつわる「手続き記憶」の変容と創発がサブテーマとなっています。僕が1,000枚のドローイングを描いていき、その筆致＝身体の記憶をAIに学習させて、AI自身にもドローイングを生成させる。そうすることで、自分が思いもしなかったような線とか形がAIから稀に出力されて、それをまた自分のドローイングに取り込むというサイクルを延々と繰り返してみる。するとAIと人間とが、写真に留められた身体記憶を媒介としながら相互に学習していく仕組みができるかもしれない。僕自身はまずは1,000枚を目標として描いていきますが、同様の仕事が仮に千年も続いたら、どんな進化が得られるのかなどといった、悠久の絵画史にもアプローチできるコンセプトだと思っています。

村山悟郎《データのバロック ― 機械学習のための千のドローイング no.1》2023年 作家蔵

小田原 村山さんが日々のドローイングをSNSにあげているのを拝見していますが、会場には1,000枚のドローイングが展示されるのですか。

村山 いいえ。現時点では描けているのは530枚くらいで、おそらく展覧会が始まるまでに1,000枚は

村山悟郎

1983年、東京都生まれ。〈織物絵画〉と名付けたカンバスを編みながら画面を拡張する作品やルールによってパターンを展開するドローイングなど、自然界に存在する自己組織化するプロセスなどを制作過程で実践し、反復に介在する自己の意識に関心を向けている。本展では、村山悟郎が1,000枚のドローイングを制作し、それを元に、池上高志のコンセプトによる人工生命（Alife）研究のAlternative Machine、そしてAI からの創造的な表現を試みるQosmo、それぞれが異なったアプローチからAIを使った作品制作を行う。

小田原のどか

1985年、宮城県生まれ。時代によって置き換えられる公共彫刻に着目し、作品制作と並行して自身で出版社を主宰。出版・執筆によって彫刻の存在を問う活動を行っている。美術評論でも幅広く活躍。本展ではテキストによる新作を発表。当館が所蔵している「上野彦馬関連資料（故梅本貞雄氏所蔵）」を取り上げ、彫刻と写真との関連から、新たな視点を生み出すことを示唆する。

表紙図版）米田知子《絡まった有刺鉄線と花（非武装地帯近く・チョルウォン・韓国）II》2015年 作家蔵

描き上がらないんです。あくまで1,000枚というのはAI学習のための目安であって、展示ではそれまでに描いたドローイングのプロセスを表す映像や、AIで生成した村山ドローイングの展開、パターンの進化などを見せるつもりです。実作としてのドローイングは、描いていくなかで作品が大きく変化する契機になったものや、よく描けたものを50枚ぐらい選ぶ予定です。

関 《織物絵画》に代表されるように、村山さんは一貫してご自身の身体を介在させる作風ですが、今回もその流れと捉えられますね。

村山 はい。友人の数学者にこの作品のことを話したら、「また人力シミュレーターをやってる」と言われまして（笑）。プログラムを書いてコンピューター上で走らせるのが通常のシミュレーションですが、自分の身体で走らせてみると何が起こるかということをやっていて、そこに新しい造形というか、絵画の新しい可能性があるのではないかと。

関 一方で、小田原さんにお声がけをしたのは、「彫刻」と「写真」というテーマが頭にあってのことでした。一見、遠い存在にも思える両者だけど、それぞれが果たしてきた役割を考えると、近しいものがあるのではないかと思うのですが。

小田原 最初に浮かんだのは、モニュメントというキーワードでしたね。モニュメントというと造形的な彫像や凱旋門といった建築物がイメージされるかもしれませんが、必ずしもそれだけではないし、写真がモニュメントのありかたに強く関わっているんじゃないかと。

関 篠山紀信さんの出品作《誕生日》は、篠山さんが毎年の誕生日にお母さまに写真館に連れて行かれて撮影された写真群です。篠山さんが撮影された「作品」ではないのですが、プライベートな写真が展示されることで、誰にでもある子どもの成長という経験として共有される。つまりモニュメンタルな集合的記憶へと変化する。こうした写真のあり方も面白いなということで、篠山さんに無理を言って出品のお願いをしました。小田原さんの作品も、「作者不詳」がひとつのテーマになっていますね。

左）作家不詳《（上野彦馬翁銅像再建除幕式記念）》1951年 東京都写真美術館蔵
右）作家不詳《（上野彦馬翁のトリック写真）》制作年不詳 東京都写真美術館蔵

小田原 美術館の機能や特性を自問するなかで気がついたのが、作品をアーカイブすることで、作品と作家とをイコールで結びつける機能があるということでした。作家名が明らかなものは作品として扱われますし、ないものは資料として扱われる。このインデックス作業自体が、美術史の価値体系にも強い影響を与えていて、とても面白いなと。

それで東京都写真美術館が何を収蔵し、何を見せてきたんだろうかということに関心を持ち、収蔵庫を見せてもらう時間を贅沢に取らせていただきました。そのなかで私が強い関心を持ったのが美術館のデータベース上で「作者不詳」と分類されているものでした。そうして上野彦馬という日本の写真の開祖の一人と言われる方にまつわる写真に出会ったんですね。

村山 なぜ、膨大な作家不詳の写真の中から、これらの写真を選んだのですか。

小田原 ご本人の肖像が写っているものがあれば、上野の胸像やお墓の写真もあって、モニュメンタルな写真であると同時に、「像」という意味で写真と彫刻の接点を如実に表している点に注目しました。展示では、上野彦馬が写真館を運営していた長崎にも取材に行って書いた8,000文字ほどのテキストを大判の紙に印刷し、写真の近くに積み上げます。印刷したテキストは自由に持って帰ることができます。これを手に取った人に、折りたたんだり、丸めたりといった行為を通じて、彫刻的な経験をしてもらいたいなと。タワーのように積まれた紙は、会期後半になるにつれてなくなっていきますが、それも美術館の展示における彫刻のあり方として自分なりに提示してみたいなと思っています。

村山 お話を伺っていると、写真そのものだけでなく、写真を見る側のアクチュアリティもセットで立ち上がってくる何かがとても重要に感じますね。小田原さんが美術館の収蔵庫に行くという行為から始まり、リサーチベースでテキストを描く、さらに鑑賞者がペーパーを手に取って、という一連の行為は写真の再現働化というか、写真と記憶のあり方でいうと、ひとつの理想的なかたちなのかなと。

というのも、僕自身、描いたドローイングの写真をAIに読ませる際に膨大な枚数のプロセスを見返すんですが、自分ですら忘れていた筆致や描き順とか記憶が揺さぶられて、その後のドローイングが大きく変わるきっかけになる。つまり写真が記憶を揺さぶって、現実性を変容させるんですね。小田原さんの場合は、その揺さぶりが他者との関係の中に現れているというところが社会的で面白いですね。

小田原 ありがとうございます。実は裏テーマとしてあるのが、資料や作品を何度でも見直したり、語り直したりする機会が大事なんじゃないかなということです。過去のことを今の価値観で断罪するのはよくないと言われることがありますが、今回の展示で言えば上野彦馬の写真を展示するのは「今」ですし、これを見ている私たちも「今ここ」にいるわけですから、解釈というのは時代ごとに上書きされていきますよね。そういったことを前提にしたい。上野彦馬の写真が、次にいつ、どういうかたちで展示されるかわかりませんし、今回私が書いたものとは全然違うことが書かれるかもしれない。でも、そういう営みを、前向きに捉えたいというメッセージを密かに持ちながら、展示に臨みたいと思っています。

（インタビュー・構成　細川英一）

記憶：リメンブランス―現代写真・映像の表現から

Remembrance beyond images

2F 2024.3.1|金| - 6.9|日|

写真・映像は、人々のどのような「記憶」を捉えようとしてきたのでしょうか。現場で記録するルポルタージュやドキュメンタリーだけでなく、時間や空間が隔てられていても、観る者の感覚を揺さぶり、想像力を拡張させることで目には見えない記憶を伝える試みも続けられました。それぞれが他者の記憶、あるいは時代に刻まれたイメージと観る者自身の記憶とを結び付ける写真・映像の特性を活かしたものでありながらも、作家たちのアプローチは多様です。

本展では、『決闘写真論』(1976年)における篠山紀信の示唆を起点としながら、高齢化社会や人工知能(AI)のテーマに至る日本、ベトナム、フィンランドの注目される7組8名のアーティストたちの新作、日本未公開作を含む70余点を紹介します。

関連イベント

▸アーティスト・トーク
〈米田知子×マルヤ・ピリラ 独特な手法で注目される日本とフィンランドの写真家による対話〉
2024.3.2(土)13:30-15:30
〈グエン・チン・ティ 2015年にフランスで発表された《パンドゥランガからの手紙》を語る〉
2024.4.21(日)16:00-18:00
[会場] 東京都写真美術館 1階ホール　[定員] 190名
[参加費] 無料

▸展覧会担当学芸員によるギャラリートーク
2024.3.1(金)、4.5(金)、5.17(金)
※4.5(金)と5.17(金)は手話通訳付き

参加作家

篠山紀信、米田知子、グエン・チン・ティ(ベトナム)、小田原のどか、村山悟郎、マルヤ・ピリラ(フィンランド)、Satoko Sai+Tomoko Kurahara(順不同)

[観覧料] 一般700円 ほか 各種割引あり
※オンラインで日時指定チケットが購入できます。くわしくは当館ウェブサイトをご覧ください。
[主催] 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館
[協賛] 東京都写真美術館支援会員　[助成] フィンランドセンター

1

2

3

4

5

1)マルヤ・ピリラ《カメラ・オブスクラ/ルース》〈インナー・ランドスケープス、トゥルク〉より 2011年 作家蔵
2)グエン・チン・ティ《パンドゥランガからの手紙》2015年 東京都写真美術館蔵
3)米田知子《アイスリンク－日本占領時代、南満州鉄道の付属地だった炭坑のまち、撫順》〈Scene〉より 2007年 東京都写真美術館蔵
4)Satoko Sai + Tomoko Kurahara《ルース》〈インナー・ランドスケープス、トゥルク〉より 2011年 作家蔵
5)篠山紀信《家 石川県珠洲市》1974年 東京都写真美術館蔵

※事業は諸般の事情により変更することがございます。
最新情報は当館ウェブサイトでご確認ください。

TOPコレクション 時間旅行 ― 千二百箇月の過去とかんずる方角から

TOP Collection: A Traveler from 1200 Months in the Past

3F 2024.4.4|木| - 7.7|日|

『春と修羅』（復刻版）個人蔵

わたくしといふ現象は
仮定された有機交流電燈の
ひとつの青い照明です
（あらゆる透明な幽霊の複合体）
風景やみんなといっしよに
せはしくせはしく明滅しながら
いかにもたしかにともりつづける
因果交流電燈の
ひとつの青い照明です
（ひかりはたもち　その電燈は失はれ）…

宮沢賢治『心象スケッチ 春と修羅』序文より
一九二四（大正13）年

様々な時代を自由に旅する「時間旅行」という発想は昔からよく知られたSF的なファンタジーですが、想像の世界や芸術の領域では、本来、人は誰でも時間と空間の常識を飛び越えることが可能なのではないでしょうか。

詩人で童話作家の宮沢賢治は今から100年前の1924（大正13）年に『心象スケッチ 春と修羅』を刊行しました。宇宙的なスケールの時間感覚の中で「わたくし」の心象、言葉で記録された風景、そして神羅万象がひとつに重なりあったような世界観は宮沢賢治の想像力が生み出したものです。しかし百年前の詩人の言葉とそれを生み出した想像力には、現代という分断の時代を生きる私たちの心にも響く何かがきっとあるはずです。

本展は1924年を出発点に、宮沢賢治による『春と修羅』序文の言葉をひとつの手掛かりとして、戦前、戦後そして現代を想像力によってつなぐ旅でもあります。それぞれの時代、それぞれの場所で紡ぎ出される物語と出会うことができるでしょう。写真と映像による時空を超えた旅を、どうぞお楽しみください。

《宮沢賢治の肖像写真（立像）》1924年頃
画像協力：林風舎

[観覧料] 一般700円 ほか 各種割引あり ※オンラインで日時指定チケットが購入できます。くわしくは当館ウェブサイトをご覧ください。
[主催] 東京都／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館

// 第一室 1924年－大正13年

時間旅行の出発点は、ちょうど百年前の1924（大正13）年。当館コレクションより、この年に制作された写真作品を紹介します。宮沢賢治はこの年、生前唯一の詩集である『心象スケッチ 春と修羅』を自費出版しました。

出品作家：小川月舟、高山正隆、福森白洋、ラースロー・モホイ＝ナジ、宮沢賢治、マン・レイ ほか

ヤロスラフ・レスラー《器のある静物、プラハ》1924年
ゼラチン・シルバー・プリント

吉川富三《女の顔》1924年 ゴム印画

// 第二室 昭和モダン街

1

2

写真家・大久保好六、桑原甲子雄が撮影した1930年代の東京の街と道行く人々の活気ある姿、堀野正雄らの手がけた広告写真、そして国立工芸館と江戸東京博物館の所蔵品より当時の東京の街角を彩っていた広告ポスターの競演。杉浦非水による昭和初期のモダン・デザインも見どころです。

出品作家：大久保好六、桑原甲子雄、杉浦非水、中山岩太、福原路草、堀野正雄 ほか

1）桑原甲子雄《（地下鉄入り口）》1930-39年 ゼラチン・シルバー・プリント
2）杉浦非水《帝都復興と東京地下鉄道》1929年頃 リトグラフ、オフセット・ポスター 国立工芸館蔵

// 第三室 かつて ここで –「エビスビール」の記憶

現在、東京都写真美術館が建っている土地の記憶に思いを馳せます。ビール醸造所だった、かつてのこの場所の姿を記録写真、明治・大正、昭和初期の広告ポスターで紹介。

出品作家/作品資料：「エビスビール」関連資料、黒岩保美、宮本隆司

1

2

3

4

1）作家不詳《サッポロビール・リボンシトロン ポスター》1927年頃 画像協力：サッポロビール株式会社　2）宮本隆司《サッポロビール恵比寿工場》〈建築の黙示録〉より 1990年 ゼラチン・シルバー・プリント

3）黒岩保美《D51 488 山手貨物線（恵比寿）》1953年 ゼラチン・シルバー・プリント　4）作家不詳《目黒工場の製麦棟》大正・昭和期 画像協力：サッポロビール株式会社

// 第四室 20世紀の旅 – グラフ雑誌に見る時代相

当館の図書室蔵書より、戦前から戦後までの雑誌『LIFE』『アサヒグラフ』『アサヒカメラ』のバックナンバーを選りすぐり、20世紀という時代の変遷をたどる表紙グラビアなどを紹介。

出品作家/作品資料：大束元、W.ユージン・スミス、雑誌『アサヒグラフ』、雑誌『LIFE』ほか

雑誌『アサヒグラフ』1930年5月28日号

大束元《夜空の構成 数寄屋橋にて》1958年 ゼラチン・シルバー・プリント

// 第五室 時空の旅 – 新生代沖積世

宮沢賢治の言葉にインスパイアされた、時間と空間の多層的な世界を形にしたセクション。100年前の幻燈写真や長時間露光による写真作品、マルチ・プロジェクションによる映像作品、移動する人々のスナップショットなど。

出品作家：岩根愛、川田喜久治、北野謙、木村専一コレクション、佐藤時啓、高木庭次郎、原美樹子、宮沢賢治 ほか

高木庭次郎〈（日本風景風俗100選）〉より 1910–23年
ガラス・スライドに手彩色

北野謙《光を集める》より 2017–18年 作家蔵 インクジェット・プリント

関連イベント

担当学芸員によるギャラリー・トークのほか、関連イベントを予定しています。詳細は当館ウェブサイトでご確認ください。

※事業は諸般の事情により変更することがございます。
最新情報は当館ウェブサイトでご確認ください。

2024 年度 SCHEDULE

東京都写真美術館展覧会スケジュール

東京都写真美術館で、2024年3月～2025年3月に開催する展覧会ラインナップをご紹介いたします。国内外で活躍する作家の個展や、当館珠玉の名作コレクション、新進作家によるグループ展など、1年を通じてさまざまな作品との出会いをお楽しみください。

㊀企画展　㊁収蔵展　㊂誘致展

年間パスポートの特典は、企画展、収蔵展、誘致展で異なりますので、詳細はP14をご覧ください。

展覧会の詳細や関連イベントは、決定次第、公式ウェブサイトにアップします。公式ツイッターやインスタグラムではタイムリーな情報を発信します。

@topmuseum　topmuseum

https://www.topmuseum.jp

2024.3 — 4 — 5 — 6 — 7 — 8 — 9 — 10 — 11 — 12 — 2025.1 — 2 — 3 — 4

3F 展示室

恵比寿映像祭2024 コミッション・プロジェクト
2.20(火)-**3.24**(日)

TOPコレクション 時間旅行 ㊁
4.4(木)-**7.7**(日)
1924年を出発点に、写真と映像による時空を超えた旅

特集はP7

1

TOPコレクション 見るということ ㊁
7.18(木)-**10.6**(日)
現代の視覚情報の多様化に着目し、「見る」ことの歴史・経験の豊かさを感じさせる名品を紹介

2

日本の新進作家 vol.21 ㊀
10.17(木)-**2025.1.19**(日)
日本の新進気鋭の作家を発掘、紹介するグループ展

3

恵比寿映像祭

3Fは 3.23(日)まで 開催

恵比寿映像祭2025
1.31(金)-**3.23**(日)
恵比寿を起点に展開するアートと映像のフェスティヴァル

2F 展示室

記憶：リメンブランス ㊀
3.1(金)-**6.9**(日)
写真・映像は、人々のどのような「記憶」を捉えようとしてきたのか

巻頭特集はP1

4

今森光彦 にっぽんの里山 ㊀
6.20(木)-**9.29**(日)
自然写真家・今森光彦が捉えた里山

5

アレック・ソス ㊀
10.10(木)-**2025.1.19**(日)
「写真で物語を紡ぎだす」アレック・ソスの近作を中心とした個展

6

恵比寿映像祭2025
1.31(金)-**2.16**(日)

鷹野隆大 ㊁
2025.2.27(木)-**6.8**(日)
新たな表現を模索し続ける鷹野隆大の最新作を含め、多様な側面に焦点を当てる

7

B1F 展示室

APAアワード2024 ㊂
2.24(土)-**3.10**(日)

8

没後50年 木村伊兵衛 写真に生きる ㊂
3.16(土)-**5.12**(日)
没後50年展としてその仕事を回顧するとともに、最近発見された木村伊兵衛生前最後の個展「中国の旅」(1972)の展示プリントを特別公開

WONDER Mt. FUJI ㊂
6.1(土)-**7.21**(日)

第49回2024 JPS展 ㊂
5.18(土)-**5.26**(日)

光と動きの100かいだてのいえ ㊁
7.27(土)-**11.3**(日)
岩井俊雄の作品を中心に、映像の歴史や仕組みを分かりやすく紹介

9

「巨匠が撮った高峰秀子」写真展 ㊂
11.9(土)-**12.8**(日)

国際写真賞 プリピクテ ㊂
12.14(土)-**2025.1.19**(日)

恵比寿映像祭2025
1.31(金)-**2.16**(日)

APAアワード2025 ㊂
2.22(土)-**3.9**(日)

ロバート・キャパ ㊂
3.15(土)-**5.11**(日)

1)黒岩保美《D51 488 山手貨物線(恵比寿)》1953年 東京都写真美術館蔵　2)奈良原一高《デュシャン/大ガラス》1973年　©Narahara Ikko Archives　3)原田裕規《One Million Seeings》2019年　4)マルヤ・ピリラ《カメラ・オブスクラ/ ルース》〈インナー・ランドスケープス、トゥルク〉より 2011年 作家蔵　5)今森光彦《〈春〉カタクリにやってきたギフチョウ 山形県鶴岡市》1995年 東京都写真美術館蔵　6)アレック・ソス《Anna. Kentfield, California.》、〈I Know How Furiously Your Heart is Beating〉より 2017年 ©Alec Soth　7)鷹野隆大《2023.03.24.sc.#035》2023年　8)木村伊兵衛《秋田おばこ、大曲、秋田》1953年 © Naoko Kimura　9)岩井俊雄《時間層II》1985年

5月以降に始まる展覧会名はすべて仮称です。展覧会スケジュールは2024年3月現在の予定です。
事業は諸般の事情により変更することがございます。最新情報は当館ウェブサイトでご確認ください。

支援会員

東京都写真美術館の活動をご支援いただくため、
次の企業・団体に支援会員としてご入会いただいています。

《特別賛助会員》
キヤノン(株)
全日本空輸(株)
(株)ニコン

《賛助会員》
キヤノンマーケティングジャパン(株)
(株)資生堂
大日本印刷(株)
東急建設(株)
TOPPANホールディングス(株)
富士フイルム(株)

《特別支援会員》
アサヒグループホールディングス(株)
サッポロ不動産開発(株)
サッポロホールディングス(株)
ピクテ・ジャパン(株)
リコーイメージング(株)

《支援会員》
(株)I&S BBDO
あいおいニッセイ同和損害保険(株)
アイング(株)
アオイネオン(株)
(株)アクト・テクニカルサポート
(株)浅沼商会
旭化成(株)
(株)朝日工業社
朝日新聞社
(株)朝日新聞出版
朝日生命保険(相)
(有)アスペン/POLARIS
(株)アフロ
(株)アマナ
(株)岩波書店
(株)潮出版社
(株)栄光社
(株)エージーピー
(株)ADKクリエイティブ・ワン
(一財)AVCC・霞が関ナレッジスクエア(KK²)
SMBC日興証券(株)
(株)NHKエデュケーショナル
(株)NHKエンタープライズ
(株)NHK出版
(株)NHKテクノロジーズ
ENEOSホールディングス(株)
エルメス財団
OMデジタルソリューションズ(株)
カールツァイス(株)
花王(株)
鹿島建設(株)
(株)KADOKAWA
カトーレック(株)
神奈川新聞社
カメラショップ(株)
カルチュア・コンビニエンス・クラブ(株)
(株)キクチ科学研究所
(株)キタムラ
キッコーマン(株)
(株)紀伊國屋書店
ギャラリー小柳
共同印刷(株)
(一社)共同通信社
空港施設(株)
(株)久米設計
グローリー(株)
(株)ケー・アンド・エル
ゲッティイメージズジャパン(株)
興亜硝子(株)
(株)弘亜社
(株)公栄社
(株)廣済堂
(株)講談社
(株)光文社
(株)国書刊行会
(株)コスモスインターナショナル
小山登美夫ギャラリー(株)
佐川印刷(株)
三愛オブリ(株)
三機工業(株)
産経新聞社
サントリーホールディングス(株)
(株)ジェイアール東日本企画
JSR(株)
(株)JTB
(株)シグマ
(株)実業之日本社
信濃毎日新聞社
清水建設(株)
(株)写真弘社
写真の学校/東京写真学園
シャネル(同)
(株)集英社
シュッピン(株)
(株)小学館
松竹(株)
信越化学工業(株)
(株)新潮社
(株)晋遊舎
(株)スタジオアリス
(株)スタジオエムジー
(株)スタジオジブリ
(株)SUBARU
住友生命保険(相)
(株)住友倉庫
(株)生活の友社
セイコーグループ(株)
双日(株)
ソニーグループ(株)
損害保険ジャパン(株)
第一生命保険(株)
台新國際商業銀行
大和証券(株)
(有)タカ・イシイギャラリー
(株)髙島屋
(株)竹中工務店
(株)タニタ
(株)タムロン
(株)丹青社
(株)中央公論新社
中外製薬(株)
(株)TBSテレビ
デジタル・アドバタイジング・コンソーシアム(株)
(株)テレビ朝日
(株)テレビ東京
(株)電通
東亜建設工業(株)
東映(株)
(株)東京印書館
東京空港交通(株)
東京工科大学/日本工学院
東京工芸大学
東京新聞・中日新聞社
(株)東京スタデオ
東京造形大学
東京綜合写真専門学校
(株)東京ダイケンビルサービス
東京建物(株)
東京地下鉄(株)
東京テアトル(株)
東京都競馬(株)
(株)東京ニュース通信社
(学)専門学校 東京ビジュアルアーツ
(株)東京美術倶楽部
東京メトロポリタンテレビジョン(株)
(株)東芝
東宝(株)
(株)東北新社
(株)東洋経済新報社
(株)徳間書店
戸田建設(株)
(株)トロンマネージメント
(株)ニコンイメージングジャパン
日油(株)
日活(株)
日機装(株)
日光ケミカルズ(株)
日本空港ビルデング(株)
日本経済新聞社
(株)日本廣告社
(公社)日本広告写真家協会
日本写真印刷コミュニケーションズ(株)
(公社)日本写真家協会
(公社)日本写真協会
日本写真芸術専門学校
日本生命保険(相)
日本大学芸術学部
(株)日本デザインセンター
(株)ニッポン放送
日本レコードマネジメント(株)
日本ロレックス(株)
野村證券(株)
(株)博報堂
(株)博報堂DYメディアパートナーズ
(株)博報堂プロダクツ
(株)ハーツ
パナソニックホールディングス(株)
(株)パラゴン
(株)バンダイナムコフィルムワークス
ぴあ(株)
北海道 写真の町東川町
(株)美術出版社
(株)ビックカメラ
(株)ピラミッドフィルム
(株)ファーストリテイリング
(株)フェドラ
(株)フジテレビジョン
(株)フジヤカメラ店
芙蓉総合リース(株)
(株)フレームマン
プロフォト(株)
(株)文化工房
(株)文藝春秋
北海道新聞社
(株)ホテルオークラ東京
本田技研工業(株)
毎日新聞社
丸善雄松堂(株)
マルミ光機(株)
(株)マンダム
(株)みずほ銀行
三井住友海上火災保険(株)
三井倉庫ホールディングス(株)
三井不動産(株)
三菱地所(株)
三菱製紙(株)
三菱倉庫(株)
三菱電機(株)
三菱UFJ信託銀行(株)
武蔵大学
明治安田生命保険(相)
森ビル(株)
ヤマト運輸(株)
(株)吉野工業所
(株)ヨドバシカメラ
読売新聞社
ライオン(株)
ライカカメラジャパン(株)
(株)リビタ
(株)良品計画
(株)ロボット
(株)ワコウ・ワークス・オブ・アート
(株)ワコール

支援会員の
詳細は
こちら▼

(株)=株式会社、(相)=相互会社、(有)=有限会社、(学)=学校法人、(公社)=公益社団法人、(同)=合同会社、(一社)=一般社団法人
(一財)=一般財団法人

(令和6年1月現在・五十音順)

東京都写真美術館 年間パスポート
TOPMUSEUM PASSPORT 2024のご案内

展覧会を無料または割引でご鑑賞いただける年間パスポートを、今年も4月1日から販売いたします。ご本人様に加えて、同伴の方もご利用いただける特典もあります。有効期間は購入日から2025年3月31日まで。お早目の購入がよりおトクです。

TOP MUSEUM
PASSPORT 2024

販売価格:3,300円(税込)
販売期間:2024年4月2日〜2024年9月29日(予定)
有効期間:購入日〜2025年3月31日
販売場所:当館1階総合受付

特典1 展覧会を無料または割引でご鑑賞いただけます。対象の展覧会はP11-12の年間スケジュールでご確認ください。

1 収蔵展:無料
有効期間中は何度でもご鑑賞いただけます。

2 企画展:4回まで無料
有効期間中お好きな企画展を4回まで無料でご鑑賞いただけます。
※5回目以降は割引料金となります。

3 誘致展:割引

4 同伴の方:1名様まで収蔵展:無料/企画展・誘致展:割引でご鑑賞いただけます。

特典2 **1階ホールの上映作品を割引でご鑑賞いただけます。**
(一部作品を除く)※同伴の方:1名様まで割引(割引の有無および割引料金は上映作品によって異なります)

特典3 **(公財)東京都歴史文化財団が管理運営する下記の美術館・博物館での割引**
東京都庭園美術館・江戸東京たてもの園・東京都現代美術館・東京都美術館・東京文化会館
※割引対象はご本人様のみです。割引をご利用になる際は、パスポートのご提示が必要です。

上記以外の特典は決定次第当館ウェブサイトでお知らせします。

特典の内容は諸般の事情により変更することがございます。あらかじめご了承ください。
パスポートご利用時の注意事項は当館ウェブサイトをご覧いただくか、1階総合受付までお問い合わせください。

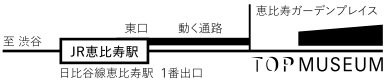
SCHEDULE / スケジュール

展覧会・イベント・上映の最新情報は、
topmuseum.jpまたはこちらへ ▶

	3F	2F	B1F	1F
2024 3	恵比寿映像祭2024 3階展示室のみ 3.24(日)まで	記憶:リメンブランス −現代写真・映像の 表現から(企) 3.1(金)−6.9(日)	APAアワード2024(誘) 2.24(土)−3.10(日)	
4	TOPコレクション 時間旅行(収) 4.4(木)−7.7(日)		没後50年 木村伊兵衛 写真に生きる(誘) 3.16(土)−5.12(日)	
5			第49回2024 JPS展(誘) 5.18(土)−5.26(日)	
6		今森光彦 にっぽんの里山(企) 6.20(木)−9.29(日)	WONDER Mt. FUJI(誘) 6.1(土)−7.21(日)	
7	TOPコレクション 見るということ(収) 7.18(木)−10.6(日)			
8			映像展(収) 映像のはじまり、はじまり 7.27(土)−11.3(日・祝)	
9				
10	日本の新進作家 vol.21(企) 10.17(木)−2025.1.19(日)	アレック・ソス(企) 10.10(木)−2025.1.19(日)		
11			「巨匠が撮った高峰秀子」 写真展(誘) 11.9(土)−12.8(日)	
12			国際写真賞 プリピクテ(誘) 12.14(土)−2025.1.19(日)	
2025 1				
2	恵比寿映像祭 2025 1.31(金)−2.16(日)			
3	3階展示室のみ 3.23(日)まで	鷹野隆大(収) 2.27(木)−6.8(日)	APAアワード2025(誘) 2.22(土)−3.9(日) ロバート・キャパ(誘) 3.15(土)−5.11(日)	東京都内の美術館・ 博物館等をお得に見られる 「ぐるっとパス」 ▼詳細はこちら▼

(企)企画展　(収)収蔵展　(誘)誘致展

東京都写真美術館
TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM



JR恵比寿駅東口より徒歩約7分、東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩約10分※当館には専用駐車場はありません。恵比寿ガーデンプレイスの駐車場をご利用ください。

〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内 Tel.03-3280-0099　topmuseum.jp

開館時間　10:00−18:00(木・金は20:00まで)※入館は閉館30分前まで。
休 館 日　毎週月曜日(月曜日が祝休日の場合は開館、翌平日休館)、年末年始(12/29−1/1)

東京都写真美術館ニュース「アイズ2024」116号 □発行日:2024年2月28日 □企画・編集:東京都写真美術館管理課企画広報係 □印刷・製本:株式会社公栄社 □発行:公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館©2024 □本誌掲載の記事、写真の無断複写、複製を禁じます。※本誌編集ページに掲載されている観覧料は、消費税込みの価格です。事業内容は諸般の事情により変更することがございます。最新の情報はウェブサイトをご覧ください。